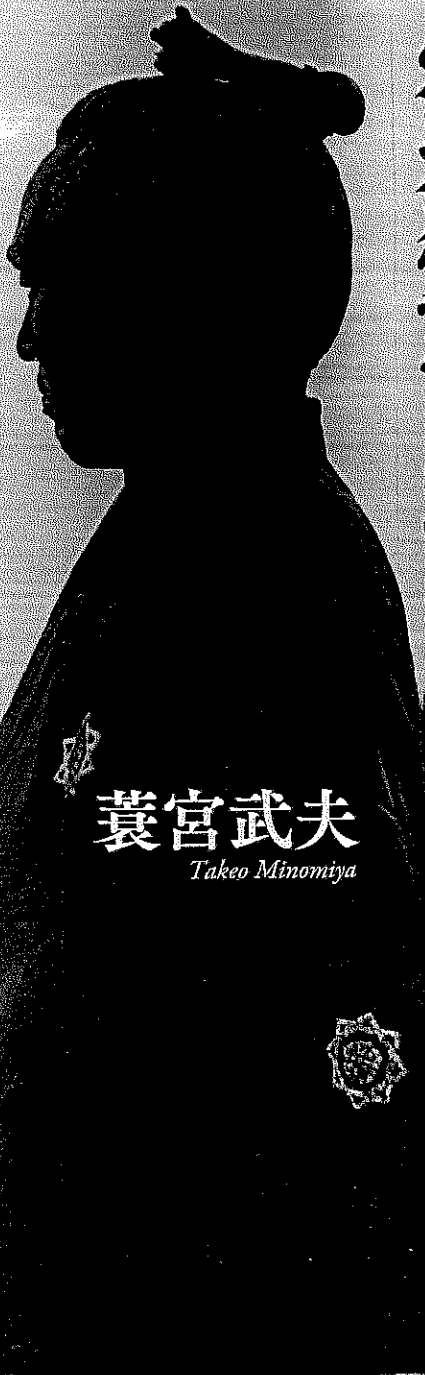


人生、 一生行動する がぜよ！

世のため人のため
愉快に生き抜く八策



蓑宮武夫
Takeo Minomiya

人生、一生行動するがぜよ！

世のため人のため
愉快に生き抜く八策

蓑宮武夫

PHP

PHP



9784569828817

ISBN978-4-569-82881-7

C0034 ¥1500E



1920034015001

定価：本体1,500円(税別)

PHP研究所

甲第36号証

談に乗ることが役目です。メンターとメンティー（メンターが支援する相手）の一番よい関係は、メンティーが何でも相談できるということ。そして何よりもメンターのことを心から信頼し、かつ尊敬していることなのです。ただ資金を提供するだけでなく、私生活に至るまですべての悩みや問題をともに解決していこうとする姿勢。そんな関係こそが結果として企業を育てることになります。残念ながら日本では、個人の億万長者が少ない。つまり次世代の人間をメインターしていくだけの人材が不足しています。これからはさらに日本経済が発展して、上場する企業がどんどん増え、その結果としてメンターがたくさん現れることを期待しています」

リスクを恐れることなく、ともに夢に向かって走っていく。そんな関係が日本にも生まれれば、必ず日本経済はよい方向に向かうと思います。ただし付け加えておくとすれば、資金提供を受ける人間もまた、甘い考え方ではいけません。しっかりとした覚悟をもっていなければいけない。

TNPとして、どのベンチャーを支援していくか。そんな議論をしていくなかで、私たちがもつとも重要視しているのは、経営者そのものです。すばらしい技術をもった企業はたくさんあります。すばらしい発想をもったベンチャーもたくさんある。そのなかでどのベンチャーを私たちは選ぶのか。それは経営者の熱意や人柄によるのです。その経営者がどれほどまでに本気なのか。これまでにどんな失敗をしてきたのか。そしてその失敗がどのように活かされてい

るのか。さらには彼を取り巻いている人間にはどのような人物がいるのか。つまりは数字には表れてこない「何か」を見ようとするのです。

たしかに技術はすばらしい。しかし、経営者の頭には利益のことしかない。取り巻き連中には金の亡者ばかりが集まっている。そんなベンチャーを応援することはありません。そんなベンチャーは、一時期は利益をあげたとしても、長く続くことがないからです。メンターとメンティーを最後につなぐもの。それはやはり魂であると私は考えているのです。

情報を通じてベンチャーを応援する出口俊一さん

ジャーナリストである出口俊一さんは、二〇〇三年にメールで情報を発信する、株式会社デジタルニューデイール研究所を立ち上げました。もともと出口さんは産経新聞の社会部で記者として長年勤めた人。警視庁や都庁担当のキャップも務めた根っからのジャーナリストです。

二〇〇二年に独立行政法人経済産業研究所に向向。ここで出口さんはデジタルニューデイール研究所を立ち上げ、大学発のベンチャー起業支援サイト（DND: Digital New Deal）を開設します。大学でどのような研究がなされているのか。それらの研究がいかに将来性があるものなのか。意外と知られていない大学での研究活動を、積極的にメールマガジンに紹介し続けま

した。

読者のターゲットは企業や投資家たち。何とかして大学と企業の橋渡しをしたい。そういう思いから出口さんは発信を続けたのです。現在のDNDメールマガジンの登録者数は一万二千人。バックナンバーは五百号を超えるまでになりました。

画期的な研究に取り組んでいる大学はたくさんあります。また素晴らしい技術をもった中小企業も全国にたくさんある。しかし、それらの研究や技術に光が当てられることはなかなかありません。それはなぜか。どこにどんな技術があるのかという情報がないからです。あるいは地方の中小企業にしてみれば、せつかくの技術を活かす方法を知りません。資金を集めようとしても、せいぜい地元の信用金庫に頼るくらいしかできない。ほとんどの銀行はベンチャーキャピタルとしての機能はもっていませんから、なかなか新しい分野に投資してくれない。結局は研究や技術が埋もれたままになっているのです。

また投資家やベンチャーキャピタルというのは、東京に一極集中しているのが現状です。地方の中小企業が東京に交渉に来るには、高い壁があることも事実です。そんな状況のなかで、出口さんのような活動が必要不可欠になっていると、私は考えています。

出口さんは記者の経験を存分に活かし、とにかく全国各地に足を運びます。九州にすばらしい技術をもった会社があると聞けば、すぐさま九州に飛ぶ。北海道でベンチャーを目指す若者

が頑張っていると聞けば、北海道に飛ぶ。そして自分の目で現場を見て、自分の目で可能性を判断するのです。

どの大学でどんな研究をしているのか。どの企業がすばらしい技術をもっているのか。そういう表面的な情報ならば、わざわざ足を運ばなくても十分に入ってきます。東京のデスクに座っているだけで情報はいくらでも入ってくる。しかし、そんな表面的な情報では何も見えてはこない。現場に行かなければ得ることのできない情報がたくさんある。出口さんは記者としての経験から、そのことを身に染みて知っているのでしょう。

出口さんが発信する情報は、読み手の企業や投資家にとっては非常に有益なものです。表面的な数字だけでなく、そこには経営者の人柄や思いまでもが含まれている。そして何よりも、出口さん自身の「こんなところこんなすばらしい技術がある。ここにすばらしい人材が息づいている。何とかして彼らを応援したい」という熱意が、メールマガジンを通じて伝わってくるのです。

もちろん出口さん自身が資金を調達したり、投資したりするということはありません。出口さんがやっていることは、ベンチャーが育つための環境づくりともいえるでしょう。メディアのもっている力を十分に発揮し、日本のベンチャーを支援していく。こういうバックアップがさらに増えれば、必ずや日本のベンチャーを取り巻く環境はよくなると、私は思っています。

それから十二年余り、大学の技術をベースにした大学発ベンチャーは、いまようやく成長期を迎え、株式上場の会社も増えました。出口さんは当初から、これらのベンチャーがやがて地方の活性化や日本経済の牽引役になることを確信していたようです。

阪和彦さんの「利他の精神」

私が尊敬の念を抱く人物の一人が、前述のアスカコーポレーション株式会社社長の阪和彦さんです。阪さんとのつきあいはいまから十五年ほど前。私がソニーで半導体部門の総責任者を務めていたころからです。そして私がソニーを辞めてからも、顧問としておつきあいをさせていただいています。

アスカコーポレーションは、もともとは京都にあったメッキの会社です。阪さんは高校を卒業してからアスカの親会社である上田鍍金株式会社に入社。その社長に請われて十九歳という若さで会社を任された人物です。さも優秀な優等生かと思われるでしょうが、じつは中学高校時代はかなりのやんちゃ坊主で、両親を困らせてばかりいたと本人はいつています。そんな京都での中学時代に、ともに野球部員として汗を流していたのが、「鉄人」と呼ばれ

る元プロ野球選手の衣笠祥雄さんだったのです。私と衣笠さんとの縁をつくってくれたのが阪さんでした。

さて、京都にあった上田鍍金の工場の分社を福岡県直方市につくったのが四十六年前。当時の直方市では炭鉱の閉山に伴い、多くの人が職を失っていました。何とかして企業を誘致したいと、当時の直方市長が京都のオムロン株式会社に要請をしました。そのオムロンからの要請が上田鍍金に回ってきたということです。

困っている人がいるのなら何とか力になりたい。自分にできることがあるのならやるべきだ。根っからそういう性分の持ち主の阪さんは、会社から独立して福岡に移り住みました。そして社名をアスカコーポレーションに変えたのです。そんな多大なる尽力が認められ、いまでは中小企業を支援する福岡県企業振興会協同組合の理事長も務めています。まさに福岡にとつてはなくてはならない人物となっているのです。

阪さんという人物を一言で表現するなら、それは「利他の精神をもった人」ということにならなんでしょう。とにかく目先の損得などを考えず、周りの人たちに手を差し伸べようとする。極端にいえば、自分の会社の利益よりも相手のことを考えたりする。だからから頼まれごとを受ければ、仕事とは何も関係がないことでも一生懸命に尽くそうとする。阪さんの生き方には頭が下がる思いがします。

ホップ、ステップ、ジャンプ！
人生、一生行動するがぜよ！
世のため人のため愉快に生き抜く八策
2016年2月17日 第1版第1刷発行

著者 蓑 宮 武 夫
卓
発行者 安 藤
発行者 株式会社 P H P 研究所

京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11
マネジメント出版部 ☎075-681-4437(編集)
東京本部 〒135-8137 江東区豊洲5-6-52
普及一部 ☎03-3520-9630(販売)

PHP INTERFACE <http://www.php.co.jp/>

制作協力 株式会社PHPエディターズグループ
組 版
印刷所 図書印刷株式会社
製本所

© Takeo Minomiya 2016 Printed in Japan ISBN978-4-569-82881-7
※本書の無断複製（コピー・スキャン・デジタル化等）は著作権法で認められた場合を除き、禁じられています。また、本書を代行業者等に依頼してスキャンやデジタル化することは、いかなる場合でも認められておりません。
※落丁・乱丁本の場合は弊社制作管理部（☎03-3520-9626）へご連絡下さい。送料弊社負担にてお取り替えいたします。

〈著者略歴〉

蓑宮武夫（みのみや・たけお）

1944年生まれ。神奈川県小田原市出身。早稲田大学卒業。

ソニー入社後、初期のトランジスタの開発、製造を担当し、その後、ビデオ機器・パソコン機器の設計から半導体の開発まで幅広く手がける。その中には、パスポートサイズの『ハンディカム』、最後発で参入したパソコン



『VAIO』などがある。生産技術研究所所長、レコーディングメディア & エナジーカンパニープレジデントを歴任。1999年より執行役員常務としてコンポーネントや半導体事業を統括した後、2001年より執行役員上席常務として品質管理を統括する Co-CQO（チーフ・クオリティー・オフィサー）、設計・生産・カスタマーサービス・資材調達を一貫して提供するソニーイーエムシーエス㈱副社長を兼任し、ソニーのものづくりの根幹業務に貢献。

2005年、ソニー退社。2006年2月に(株)みのさんファームを設立し、代表取締役役に就任。2008年、(株)TSUNAMI ネットワークパートナーズ（現 TNPパートナーズ）会長に就任。2012年、ほうとくエネルギー㈱代表取締役社長に就任。ソニー時代の経験とネットワークを活かし、数多くの企業の成長をサポートしている。(株)タムラ製作所取締役（社外）。(株)パロマ取締役（社外）。ソニー龍馬会元会長。小田原藩龍馬会顧問。著書に『されど、愛しきソニー』『ビジネスマン龍馬』『出でよベンチャー！ 平成の龍馬！』『友だち力』（以上、PHP研究所）がある。